次男坊（1953）

メディア 映画
ジャンル 青春　ドラマ　ロマンス
製作国 日本
色彩 B&W
時間 93分
初公開日 1953/03/19

【解説】
　佐々木邦の同名小説を椎名利夫が脚色し野村芳太郎が監督。1956年には同じ監督・主演で「次男坊故郷へ行く」が製作された。
　旧制高校に通う堀尾吉晴は、学友の岩崎悌四郎らとともに料亭へ向かった。教師たちが不正な飲み会を開催していると聞いたのだが、彼らが踏み込んだのは別の座敷だった。吉晴たちは誤って町の有力者をのしてしまい、その責任を取り安藤校長が辞職に追い込まれる。三年後、吉晴は大学生になっていた。証券会社への就職が決まった悌四郎は深窓の令嬢との結婚を決め、吉晴にかつての恩師である安藤への仲人依頼を頼んできた。安藤は校長を辞めた後、吉晴が通う大学の教授をしていた。吉晴は安藤宅を訪れ、そこで片岡道子という女学生と出会う。

【クレジット】
監督 野村芳太郎
製作 小倉武志
原作 佐々木邦
脚本 椎名利夫
撮影 西川亨
音楽 木下忠司

出演	高橋貞二		堀尾吉晴
	坂本武		父彦平
	土紀就一		兄玉男
	英百合子		婆やたき
	三橋達也	Tatsuya Mihashi	岩崎悌四郎
	日守新一		片岡社長
	桂木洋子		令嬢道子
	笠智衆		安藤教授
	奈良真養		高村教頭
	磯野秋雄		留吉
	山路義人		横地大三
	高友子		鈴木初子
	吉川満子		母堂和代
	多々良純		毛利部長

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.